

## INFO ①

ぺこぺこのはたけ

### 採れたて夏野菜が盛りだくさんの「季節の小鉢御膳」

まだまだ残暑が続く、9月。ぺこぺこのはたけではミニトマトやなす、ニンジンなど、はたけで採れた夏野菜が盛りだくさんの小鉢御膳を今月も皆様にお届けします!8月に大活躍したときよりも、今月は冷たくて甘いスープとして再登場します。さらに、香りゆたかな鶏ハーブ焼きやこれまた野菜がたくさん詰まったスパニッシュオムレツなど、身も心も満たされる今月の小鉢御膳をぜひともお召し上がりくださいませ。「このご時世でちょっと外食は…」と思ったそこのあなた!テイクアウトのご注文も承っておりますので、ぜひ一度お問合せいただけたらと思います。



9月の「季節の小鉢御膳」



前菜  
ズッキーニと  
帆立のミルフィーユカツ

ぺこぺこのはたけ  
TEL0133-27-6440

## INFO ②

北海道の米と汁 U-gohan 東大正門

### 新メニュー弁当、好評発売中!!

当店では商品の種類を増やし、「U-gohan弁当」という数量限定弁当の販売をスタートさせました。少し小ぶりではありますが、メインが2種入って副菜も付き、お値段もお手頃。販売開始から好評を頂き、毎日あっという間に完売です。また、夏野菜とピリ辛ダレがきいた「蒸し鶏麻辣ダレ弁当」や、北海道産とうもろこしが入った「とうもろこしキーマカレー弁当」など、夏らしいメニューも大人気です。



蒸し鶏麻辣ダレ弁当



U-gohan弁当



とうもろこし  
キーマカレー弁当

## INFO ③

### Ruelleは3周年を迎えました

おかげさまでRuelleは3周年を迎えることとなりました。これもひとえに、ご来店いただきましたお客様の支えがあったからこそ深く感謝しております。スタッフ一同、これからもお客様のご期待に添えますよう取り組んでまいりますので今後とも変わらぬご愛顧をお願い申し上げます。3周年のイベントではシュークリーム祭りを開催し、定番の生クリームシューや限定のブラリネシュー、黒ごまシューなど8種類のシュークリームがショーケースに並びました。また人気のあったシュークリームは今後月替わりで販売を予定しております。イベント期間中たくさんのお客様にご来店いただきまして誠にありがとうございました。またRuelleでは焼き菓子ギフトのご注文も承っております。お好きなお菓子を選んでいただき、ご予算に応じて詰め合わせをご用意いたします。日頃の感謝を込めて、Ruelleの焼き菓子を送りませんか?たくさんのご予約、ご注文お待ちしております。



## Donation 寄付について

### ゆうゆうの活動にご支援をお願いします

#### ◎社会福祉法人への寄付について

- 1 個人の場合
- 2 法人の場合
- 3 相続による寄付の場合

所得税の寄付金控除または税額控除が受けられます。

一般の寄付金とは別枠で、法人税法上の損金算入ができます。

租税特別措置法により相続税が非課税となることがありますのでご相談ください。※個人で適用を受けるためには確定申告が必要です。

私たちの考え方、事業に共感していただける皆さまからのご寄付を受け付けています。超少子高齢・人口減少社会などの社会課題に対し、「ひとりの想い」を大切に福祉実践を展開し継続した活動をするためには、皆さまの力が必要です。ぜひ活動へのご支援をお願いします。

#### 領収書について

寄付金控除を受けるには、「寄付金」の但し書きのある領収書が必要です。当法人発行の領収書をご希望の方は、お電話又はWEBお問い合わせフォームからご依頼ください。

TEL:0133-22-2896  
<https://yu-yu.or.jp/contact/>



#### 税額控除対象法人の決定について

この度、皆さまから頂いた多大なるご厚志のお陰で、2022年度より税額控除法人となりました。今後も変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



# YOU YOU MAGAZINE

ゆうゆうマガジン

ゆうゆうの今を伝える広報紙



ユニバーサル就労 農作業風景  
撮影:工藤了

YOU YOU MAGAZINE 2022 SUMMER

デザイン/株式会社ブリオンデ 山崎啓太郎 発行/社会福祉法人ゆうゆう 事務局 広報 tel:0133-22-2896 mail:info@yu-yu.or.jp

2022 / 8 SUMMER



## 苫小牧市に共生型地域福祉拠点がオープンします

7月、企画推進部に苫小牧市東開文化交流サロン準備室が新設されました。東開文化交流サロンとは、今年12月にオープン予定の図書室・カフェ・ギャラリー・貸館などの機能をもつ公共施設です。ゆうゆうはここで共生型福祉の実践知を生かした地域づくりと文化との出会いづくりを行っていきます。このサロンでは就労継続支援事業や地域住民の方との連携、協働を軸に、多様な方の活躍の場をつくりだし、サロンに来る人同士の「交流」をデザインしていきます。また、サロンを通じて生まれた人と人の出会い・つながり、他者や地域への想いをサロンの中だけで完結させず、地域の中での住民同士の支え合いの「文化」へと発展させていきます。サロン準備室にはこれまで相談支援事業や芸術文化推進事業に携わった2名の職員が異動することになりました。9月からは住まいも苫小牧市に移し、12月のオープンに向けて駆け抜ける予定です。これまで当別や江別で学ばせていただいたことを活かしながら、新しい地域で精進してまいりますので、応援よろしくお願いたします!



## 私のとなりのふくしに気が付く

ゆうゆうはこれまで小学校をはじめ様々な学校で「福祉教育」を実施してきました。この3年間では当別・札幌・旭川・登別・釧路の中学校・高校にうかがっています。今年度は平岸高校で4名の若手職員と、1名の発達障がい当事者による分科会式の授業を実施。受講者からは「自分と関係のない世界と思っていたが自分と地続きに福祉があることに気が付いた」との感想が届けられました。また、大原理事長が教員を勤める北海道医療大学の授業で学生と京極町に訪問し、人口3,000人の町による人づくり、地域づくりを堪能しました。そのご縁から、福祉教育を受けた中学生・高校生による地域発見ゼミ(福祉ワークキャンプ)を京極町にて取り組ませていただけることになりました。福祉教育は、「教える」機会のように、若い方々のリアルに触れ、「相互に教わる」「学ぶ」「育つ」機会になっています。



学生からの質問の様子



選択して学ぶ福祉



京極町フィールドワーク

## 野布瀬農園の夏 第1回 森とくらす

ゆうゆうでは、昨年より野布瀬農園の裏側に森を所有しています。その森を活用して、林業の仕事や、子どもたちが遊べる森を創る予定です。まずはその準備として、7月末の暑い日、利用者やボランティアの方々に協力を得て、林道に生い茂っている笹や細い木を取り除く整備を行いました。総勢27名が林道をきれいにするため、汗を流しました。9月にはもう一度森の整備をして、10月に子どもたちを呼ぶイベントを実施したいと考えています。どうぞ、森が変わっていく様子をお楽しみに。



野布瀬農園は順調に収穫が進んでおります。今年も好評いただいているスイートコーンやじゃがいも、これから収穫を予定しているかぼちゃや新米は、販売サイトより全国各地からご注文を承っております。



販売サイト



## 子どもたちの夏休みの思い出withコロナ

新型コロナウイルス感染症が急拡大していますが、amaririsu、kaedeでは、子どもたちに思い出や経験を積むことができるよう、感染対策を強化しながら夏休み支援プログラムを実施いたしました。

amaririsuでは今年で3年目となる海イベントを実施しました。保護者の方から「連れていくのが難しいからありがたい」「はじめて海に行きました」など嬉しい声をいただきました。また、子ども達は波が恐くても挑戦してみたり、海の家でかき氷を買ってみたりと、海を楽しみながら、自信につながる経験となりました。家に帰るとお家の方に「楽しかった!」と、ひと回り成長した自信にあふれた笑顔で報告していました。

kaedeでは感染対策を講じながら毎日来る子どもたちに創作活動や普段は行かない公園、テイクアウトでの昼食、一部調理活動を実施しました。以前のように自由にイベントは出来ませんが、どうやったら実施出来るのか考え、子どもたちが笑顔でイベントに参加する姿を見ることができました。



## 渋谷ダブルツールカフェ北海道医療大学の近況について

8月8日(月)に北海道医療大学で「大学へ行こう!」というイベントが開催され、イベント参加者が大学内の渋谷ダブルツールカフェ北海道医療大学店に来店されました。今回の参加者は道内の児童養護施設を利用している中学生や高校生が対象で、模擬講義体験やキャンパス見学を通して大学生活をより深く知ってもらうことを目的としています。来店された参加者たちは緊張した面持ちでメニュー表を眺めながらも「これおいしそう!」「みんな同じにする?」と楽しそうにメニューを選んでいく姿が印象的でした。帰る際には「おいしかったです!」と声もかけてくれ、東の間ではありましたが大学生活のひと時を感じてもらえたように思います。またダブルツールカフェは長らくお休みしておりましたが、9月から営業再開予定です。再び学生や教職員の皆さんに喜んでいただけるよう準備してまいります。



## 福祉の現場を学ぶため、研修生が来ました!

ゆうゆうでは過去に他法人からの研修生を受け入れてきましたが、今年度も、一般社団法人FACE to FUKUSHIが事務局を務める、SOCIAL WORKERS LABという活動団体から、出向という形で1名研修生を受け入れております。

西川敦彦と申します。高校まで札幌市で生まれ育ちました。この3月に大学を卒業し、5月からゆうゆうで働いております。僕は2年前からSOCIAL WORKERS LAB(SWLAB)という活動に参加しているのですが、SWLABの活動にとって社会福祉の現場での経験が必要なのではないかと、活動を見守ってくださっていた大原理事長からこの3月にご提案をいただき、来年の3月までの出向という形でゆうゆうで働かせていただくに至りました。

主にはヘルパーステーションajisaiで居宅介護や移動支援に従事しており、利用者さんの1つ1つの行動、発言、表情などから、日々学ばせていただいております。目の前の人に向き合う難しさとおもしろさ、学ぶ喜びを感じています。まだまだ未熟者ですが、これからもどうぞよろしくお願いたします。

